

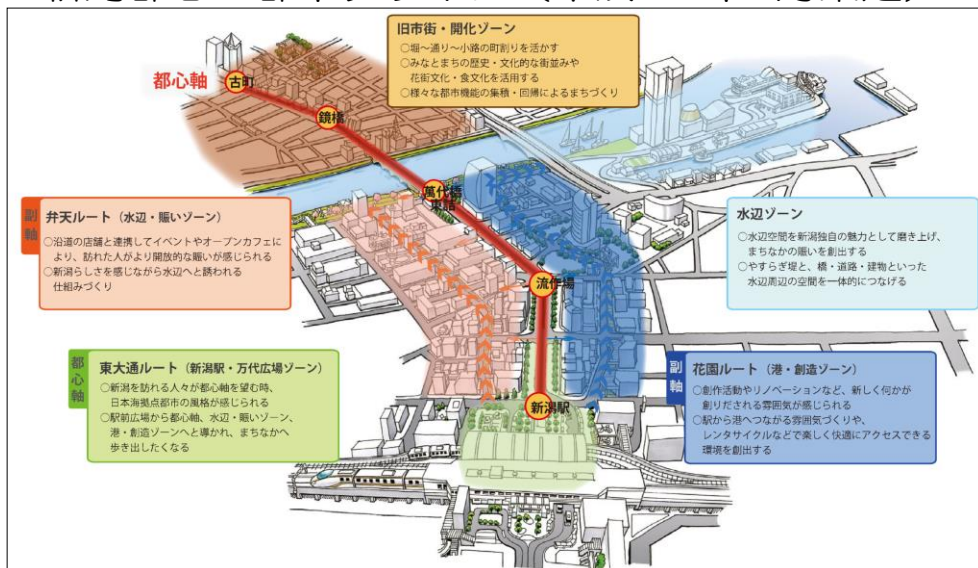
「(仮称)古町地区将来ビジョン」 の策定について

背景について

背景

- 新潟開港150周年の機会に、これまでの都市構造の変遷を改めて見直し、本市のまちづくりの将来像を明示化するため「新潟都心の都市デザイン」（平成30年7月新潟県・新潟市）を策定した。
- 都市デザインを具現化していくため、「万代島地区将来ビジョン」（平成31年3月新潟県・新潟市・新潟西港・水辺まちづくり協議会）を策定したほか、令和元年7月に「新潟駅交通結節機能強化検討委員会」及び「新潟駅・万代地区周辺まちづくり協議会」を立ち上げ、より具体的・実践的な取組を推進している。
- 古町地区は、令和2年3月に新潟三越の閉店、5月にふるまち庁舎（古町ルフル）オープンと、まちの大きな変革の時期を迎える。

●新潟都心の都市デザイン（平成30年7月策定）



●古町ルフル（イメージパース）



新潟都心の都市デザインについて

新潟
都心

都市デザインのイメージ

5つのゾーンそれぞれで特徴あるまちづくりを展開

かつて信濃川に平行して堀と通りが設けられ、それが新潟の都市構造となったように、今度は新潟駅から信濃川、そして古町へと向かう新潟の軸として都心軸・副軸を中心に新たなまちづくりを進めていきます。次の150年を見据え、新潟駅から古町までの約2kmにわたってそれぞれのゾーンで特色あるまちが展開され、通して歩くとみなとまちの発展の歴史と個性を理解でき、将来は都心軸が新潟の都市イメージになるように軸沿いのまちづくりを進めます。

歴史・文化的
景観



旧市街地・開化ゾーン

古町から萬代橋東詰まで。"堀～通り～小路の町割り"や"みなとまちの歴史・文化的な街並み"、"花街文化・食文化"を活かす、様々な都市機能の集積・回帰によるまちづくり

副軸 弁天ルート (水辺・賑わいゾーン)

沿道の店舗と連携して、訪れた人がより開放的な賑わいや、新潟らしさを感じながら水辺へと誘われる仕組みづくり



新潟らしさ
演出

都心軸 東大通ルート (新潟駅・万代広場ゾーン)

日本海拠点都市の風格と機能を併せ持つゾーン。駅と「まち」をつなげ、人が集まりやすい機能と空間、駅からまちなかへ歩き出したくなる

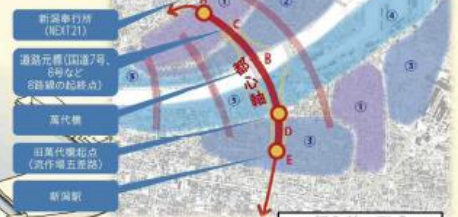


駅から
"まちなか"へ



信濃川の恵みにより発展してきた新潟は、川がもたらす砂と水への対応を通じて、都心が信濃川に沿って層状に拡がってきた(横の都市づくり:①→②→③→④→⑤)

一方で、信濃川の流れに向かって、垂直に交わる「都心軸」を形成し、エリアのつながりを深めることで、新潟の都心は発展の礎を築いてきた(縦の都市づくり:A→B→C→D→E)



都心軸の形成

- A: 江戸時代(奉行所、堀、小路)
- B: 明治時代(萬代橋)
- C: 昭和初期(紅谷小路を新潟の軸)
- D: 昭和中期(新しく新潟駅と東大通)
- E: 平成(新潟駅の高架化、周辺整備)

水辺ゾーン

信濃川・西港の水辺空間を新潟独自の魅力として磨き上げ、周辺の空間と一体的につなぎ、まちなかの賑わいを創出



楽しく快適に
アクセス



副軸 花園ルート (港・創造ゾーン)

新しくなにかが創り出される雰囲気を感じられる。駅から港へつながる雰囲気づくりや、楽しく快適にアクセスできる環境を創出

図は、コンセプトを共有しやすするための案であり、あくまでイメージです。

新潟都心の都市デザインについて②

都市デザインのポイント

- 新潟がこれまでの歴史の中で蓄積したものを集積し、それが市民の暮らしと結びつくような、魅力ある新潟のイメージが持てるデザイン
- コンセプトが明確でわかりやすく、共通の視点をもつことでこれからのまちづくりに活かせるデザイン

都市デザインの基礎（新潟の都市構造の変遷振り返り）

- 信濃川の恵みにより発展してきた新潟は、川がもたらす砂と水への対応を通じて、その都心を形成してきた
- 一方で、信濃川の流れに向かって垂直に交わる都市づくりを行うことで、新潟は発展の礎を築いてきた

新潟駅から始まる新しい新潟の軸とは

- かつて信濃川に並行して堀と通りが設けられ、それが新潟の都市構造となったように、今度は、信濃川に向かう新しい新潟の軸として、都市構造を構築する
- それぞれのエリアで特色あるまちづくりが展開され、通して歩けばこれまでの新潟の歴史を理解できるような軸を目指す
- 将来的には、この軸が新潟の都市イメージとなり、新潟にとっての「都市」のアイデンティティとなることを目指す

策定主体及び目的

策定主体

○ 新潟市

※「（仮称）古町地区将来ビジョン懇談会」を設置し、有識者や関係団体から幅広い意見を聴取し、策定する

策定の目的

変革を迎える時期に、古町にかかわる多くの関係者と今後目指すべき将来の姿を共有するため、「（仮称）古町地区将来ビジョン」を策定する

- 具体的な事業・取り組みを記載するものでなく、古町地区の望ましい姿を表現し、まちづくりの方向性を示すもの（ランドデザイン）
- 商店街関係者、地権者などの古町関係者のみならず、市民や来街者などの様々な立場の人々にとって分かりやすいもの（ビジュアル化）
- まちづくりに関わる様々な主体がこの将来ビジョンを共有し、共通の視点で取り組みを進めていく指針とするもの（共有・誘導）

対象とする範囲について



古町地区(旧市街・開化ゾーン)
堀～通り～小路の町割りやみなと
まの歴史・文化的な街並みや施設、
花街文化・食文化を活かす、
多様な都市機能の集積・回帰による
まちづくり

水辺ゾーン
信濃川・西港の水辺空間の魅力を磨きあげ、
周辺の空間と一体となって
まちなかの賑わいを創出

**花園ルート
(港・創造ゾーン)**
駅から港へつながる雰囲気
づくりや、楽しく快適に
アクセスできる環境を創出

**弁天ルート
(水辺・賑わいゾーン)**
沿道の店舗と連携して、
訪れた人が開放的な賑わいや、
新潟らしさを感じながら水辺へ
と誘われる仕組みづくり

**東大通ルート
(新潟駅・万代広場ゾーン)**
日本海拠点都市新潟の
風格と機能を併せ持つ
ゾーン

上位計画等との整合①

- 市が策定している既存の上位計画等を踏まえつつ策定する。

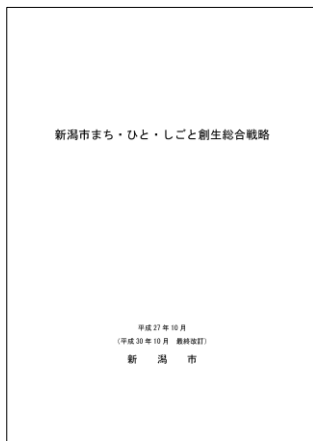


●新潟未来ビジョン（平成27年4月）

1 総論 (2) 土地利用方針 方針2「拠点の形成」・まちづくりについては、本市の都市活動の拠点として新潟駅周辺・万代・古町地区などの都心を再生することにより都心軸を明確化し、政令市新潟の核としての「顔」を作ります。

●新潟市まち・ひと・しごと創生総合計画（平成27年10月）

第2章 政策分野と具体的に取り組む施策の方向性 2. 政策分野と具体的な施策 (4) 地域力・市民力を活かした誰もが安心して暮らせるまち ウ みなとまちの歴史や文化など、魅力的なまちなかを感じられる暮らし・新潟駅前・万代・古町を結ぶ都心軸において都市機能の向上による中心市街地の再構築や、堀割や花街など、みなとまちとしての歴史・文化を活かした景観づくりに取り組み、都心の再生を図ります。



上位計画等との整合②

●新潟市都市計画基本方針（都市計画マスタープラン）（平成20年7月）

第3章 都市づくりの理念とめざす都市のすがた 2 めざす都市のすがた

・新潟市の都市活動の拠点として古町・白山、万代、新潟駅周辺を包含した区域を「都心」として位置づけ。

第4章 都市・地域づくりの方針 2 政令市新潟の都市づくりの方針—全市レベルの基本方針 方針2 個性ある日本海拠点都市新潟方針2-1 日本海都市・多核連携型都市の顔づくり 目標6 都市の中心核をつくる 3) 古町地区では、みなとまちの歴史と文化を活かした魅力の発揮と、生活のにぎわいを取り戻すことに取り組みます。・古町地区では、地区住民や市民団体とともに、「みなとまち」の歴史と文化を活かした街並みの再生に取り組み、地区の住民が誇りと愛着を持ってその街に暮らし、訪れる人々がその魅力を楽しみながら回遊できる都市空間を創出します。また、居住地の郊外立地、郊外型大規模商業施設の展開などにより、住宅地では空き家、商店街では空き店舗が発生していることから、空き家や空き店舗の利活用に取り組み、地区で暮らす人々、商売を営む人々による生活のにぎわいと、連続性を持った街並みの維持・向上を目指します。

5) 都心では、自転車や歩行者が安全で快適に移動できる交通環境、公共交通で快適に移動できる交通環境の創出に取り組みます。・新潟駅周辺から古町をつなぐ通り（東大通～榎谷小路）は、都心の中でも移動が最も集中する骨格軸です。この軸を中心に、「人に優しい公共交通ゾーン」として公共交通軸の強化を図ります。併せて、自転車や徒歩による移動を容易に、快適にすることも重要です。そのためには、道路の機能の見直しと、道路空間の使い方の見直しが必要です。道路の機能の見直しとして、都心を通る自動車交通を都心の外側に誘導し、不要な自動車交通が都心の内部にまで入り込まないような道路体系の構築と、交通規制などによる円滑化を図ります。これにより、都心では、自動車メインの道路空間の使い方を見直し、自動車が使っていた道路空間を、歩行者や、これまで整備が取り残されてきた自転車のための空間として使うことに取り組みます。

第4章 都市・地域づくりの方針 2 政令市新潟の都市づくりの方針—全市レベルの基本方針 方針2 個性ある日本海拠点都市新潟 方針2-1 日本海都市・多核連携型都市の顔づくり 目標9 個性ある市街地の景観を形成する 3) 歴史的な街並みの保全・創出と、企業やまちづくり団体との連携・協働による景観形成を進めます。・古町地区における堀と柳のまちづくりの推進など、みなとまちの歴史や文化を活かした街並み景観の保全・創出に取り組みます。また、企業や研究機関、専門家、市民団体などと連携・協働して、景観形成の課題解決に向けて取り組みます。



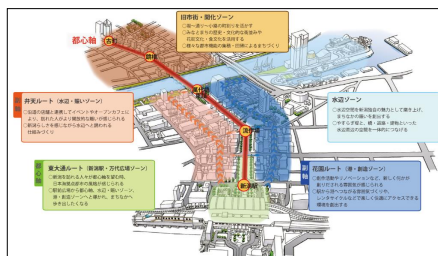
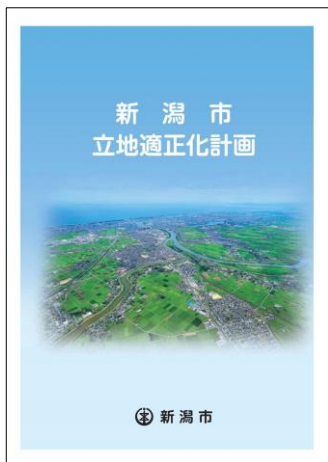
上位計画等との整合③

●新潟市立地適正化計画（平成29年3月）

第2章 立地適正化に向けた基本的な方針 2 目指す都市の骨格構造 (2) 都心及び都心周辺部が担う機能
○都心軸について・新潟駅から古町地区に連なる中心市街地を本市の「都心軸」とします。本市にあるまちなかの中でも中枢的な業務・商業機能が集積され、多くの人々やモノが集まる好循環を生み出す地域です。

第2章 立地適正化に向けた基本的な方針 2 目指す都市の骨格構造 (2) 都心及び都心周辺部が担う機能 ■
都心及び都心周辺部における都市機能充実の方向性 ◆商業・飲食・業務と文化が一体となった中心的なまちなか・みなとまちから続く商業・飲食の中心地であり、特色ある食文化が色濃く残る。非日常的な都市型サービスなど、多様な機能の再集積を図り都心回帰モデルとしての機能強化を図る。・みなとまちの歴史を活かした花街文化の活用、まちの魅力向上。

第3章 立地適正化を図る区域等 3 都市機能誘導区域の設定 (2) 対象とするエリア a重点エリア(都心)
【都心軸】古町～万代～新潟駅周辺・中枢的な業務・商業機能が集積し、民間による都市機能立地に関わる事業(再開発事業など)が重点的に取組まれ、多様な交流・賑わいを創出するエリア。・高次都市機能が既に集積しており、今後も様々な魅力・交流から新たな情報や文化を発信していくことで市全体の活力を牽引するエリア。



●新潟都心の都市デザイン（平成30年7月）

旧市街・開化ゾーン

- 堀～通り～小路の町割りを活かす
- みなとまちの歴史・文化的な街並みや花街文化・食文化を活用する
- 様々な都市機能の集積・回帰によるまちづくり

●古町地区活性化まちづくり調査 報告書（平成29年度）

古町地区の活性化に向けて

- 各種データ整理やヒアリング等による、現状の把握
- 活性化の方向性や目指すべき姿の検討と必要な施策や役割分担の検討を行い、取りまとめた



スケジュール

策定スケジュール（予定）

令和元年			令和2年			
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
○ 第1回 懇談会	議事 ○懇談会の立ち上げ ○古町地区の歴史や現状 ○ビジョンの方向性	○ 第2回 懇談会	議事 ○将来ビジョン(素案) ○エリアごとの将来像 ラフイメージ	○ 第3回 懇談会	議事 ○将来ビジョン(案) ○エリアごとの将来像 イメージ	○ ビジョン公表

※スケジュールは予定であり、今後変動する場合があります。